



COLORS,
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

第20回川崎国際エコビジネスフォーラム

川崎市の脱炭素経営推進の取組

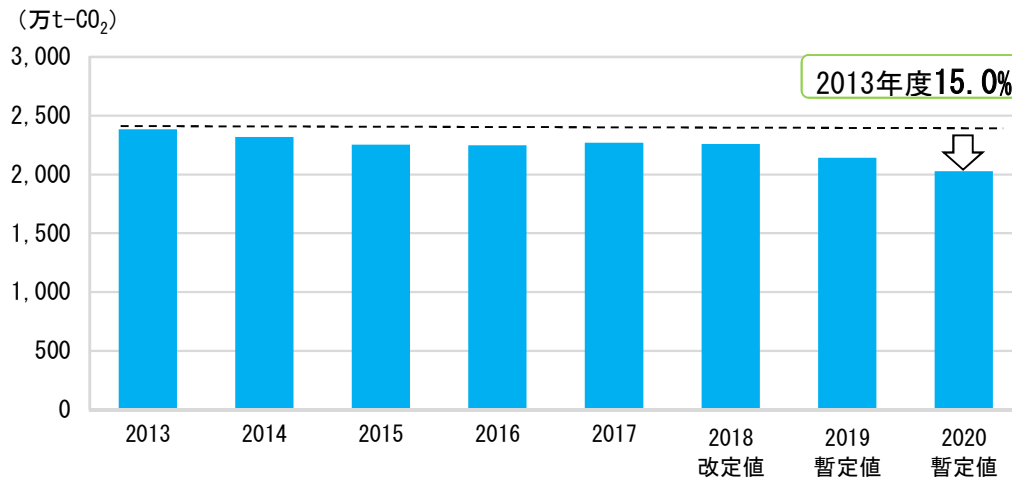
令和5年11月

川崎市環境局脱炭素戦略推進室

室長 井田 淳

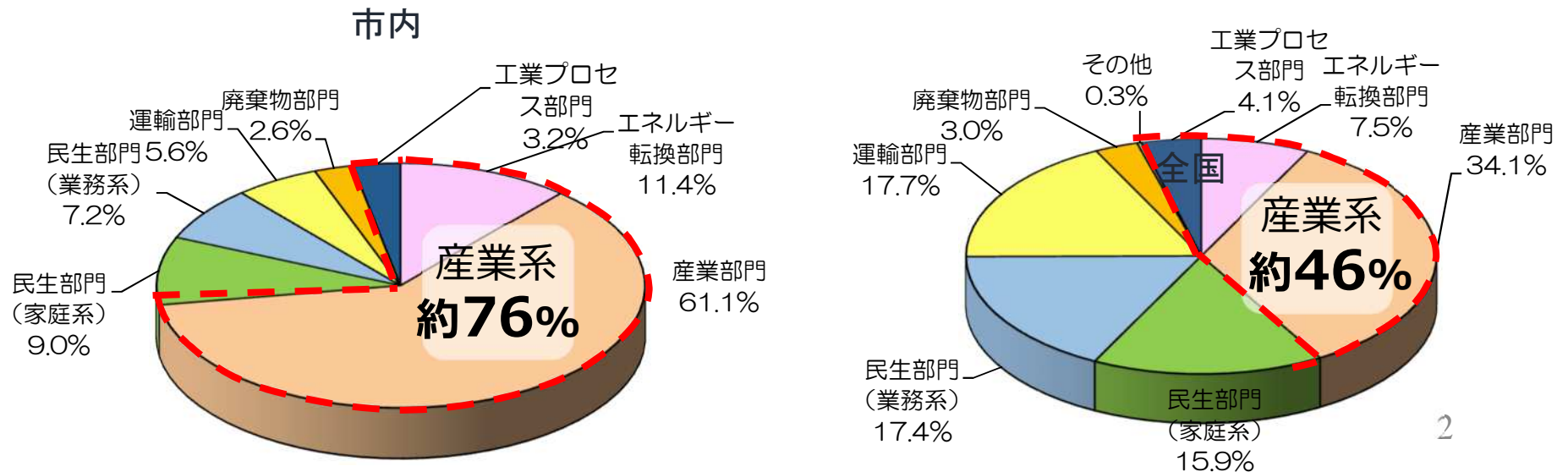
市域の温室効果ガスの排出状況

●市域の温室効果ガス排出状況



2020年度の排出量(暫定値)
は**2,026万t-CO₂**
* 2013年度比▲15%

●二酸化炭素排出量の部門別構成比(2020年度暫定値)



川崎市地球温暖化対策推進基本計画

将来ビジョン

2050年の市域の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す

2030年度目標

市域全体目標 ▲50%削減（2013年度比）

＜個別目標＞

民生系 ▲45%以上削減、産業系 ▲50%以上削減

市役所 ▲50%以上削減

再エネ目標 33万kW以上導入

5大プロジェクト

No.	プロジェクト名	主な取組
PJ1 再エネ	地域エネルギー会社を中核とした新たなプラットフォーム設立による地域の再エネ普及促進PJ	地域エネルギー会社を中核とした新たなプラットフォームの設立
PJ2 産業系	川崎臨海部のカーボンニュートラル化・市内産業のグリーンイノベーション推進PJ	川崎カーボンニュートラルコンビナート構想に基づく取組推進、事業者の新たな評価・支援制度の検討
PJ3 民生系	市民・事業者の行動変容・再エネ普及等促進PJ	脱炭素先行地域における取組推進、再エネ導入に係る義務制度の検討
PJ4 交通系	交通環境の脱炭素化に向けた次世代自動車等促進PJ	EV/FCVステーション拡充に向けた優遇措置等の検討
PJ5 市役所	市公共施設の再エネ100%電力導入等の公共施設脱炭素化PJ	2030年度までに全ての市公共施設への再エネ100%電力の導入

脱炭素経営推進（1）

●事業活動脱炭素化取組計画書・報告書制度：令和6年4月施行

市が2030年度CO₂削減及び2050年カーボンニュートラルに資する**評価項目を設定**し、対象事業者に対し、**計画書・報告書の提出義務**を課す

義務対象者

- 1号：原油換算年**1,500kL**以上使用する**事業者**
- 2号：原油換算年**1,500kL**以上使用する**事業所**及び当該**連鎖化事業加盟者**
- 3号：**車両100台**以上保有する事業者
- 4号：CO₂以外の温室効果ガスを年**3,000t-CO₂**以上排出する事業者

記載・評価項目

【評価軸①】

2030年度CO₂削減目標達成

評価項目①

- 1 温室効果ガス排出量（直近のみ）
- 2 温室効果ガス排出量（過去含む）
- 3 省エネ
- 4 再エネ・電化
- 5 自動車

【評価軸②】

2050年カーボンニュートラル

評価項目②

- 6 中長期目標・イノベーション等（事業者全体のCO₂削減取組・インフラ加盟、Scope3等の取組を含む）

評価結果公表

- 対象事業者の評価を一覧表等でまとめ、ホームページ等へ3年程度公表

簡易版制度

- 項目のうち「CO₂排出量削減」及び「再エネ・電化導入」のみを必須とするなど、多くの事業者が活用しやすい制度を目指す

脱炭素経営推進（2）



●川崎CNブランド

ライフサイクルでCO₂削減に貢献する「製品・技術」「サービス」を認定する制度

2009年度より「低CO₂川崎ブランド」として開始し（2022年度までに126件認定）、2023年度より「川崎CNブランド」へリニューアル

原材料調達

リサイクル原料の使用
原材料使用量の削減など

生産

生産効率の向上
エネルギーの削減など

流通・販売

製品の小型化
製品の軽量化など

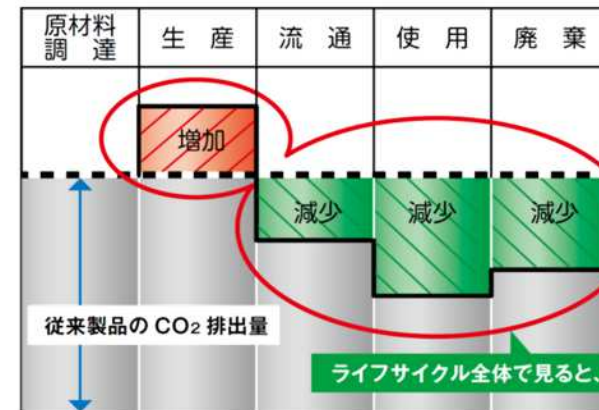
使用・維持管理

消費電力の削減
維持管理回数の削減など

廃棄・リサイクル

廃棄量の削減（リサイクル率向上）
廃棄方法の変更など

ライフサイクル全体のCO₂削減効果



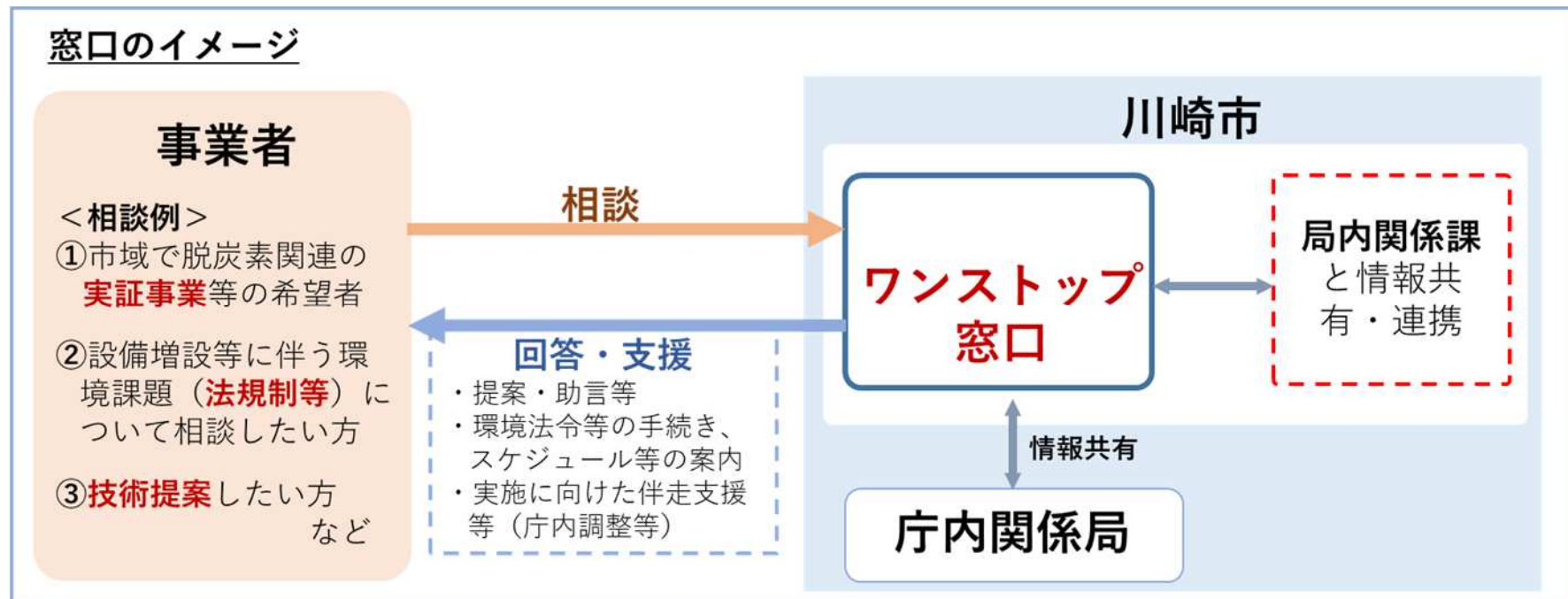
従来製品と比較して
CO₂増加

従来製品と比較して
CO₂減少

脱炭素経営推進（3）

●脱炭素化に資する環境課題のワンストップ窓口：令和4年設置

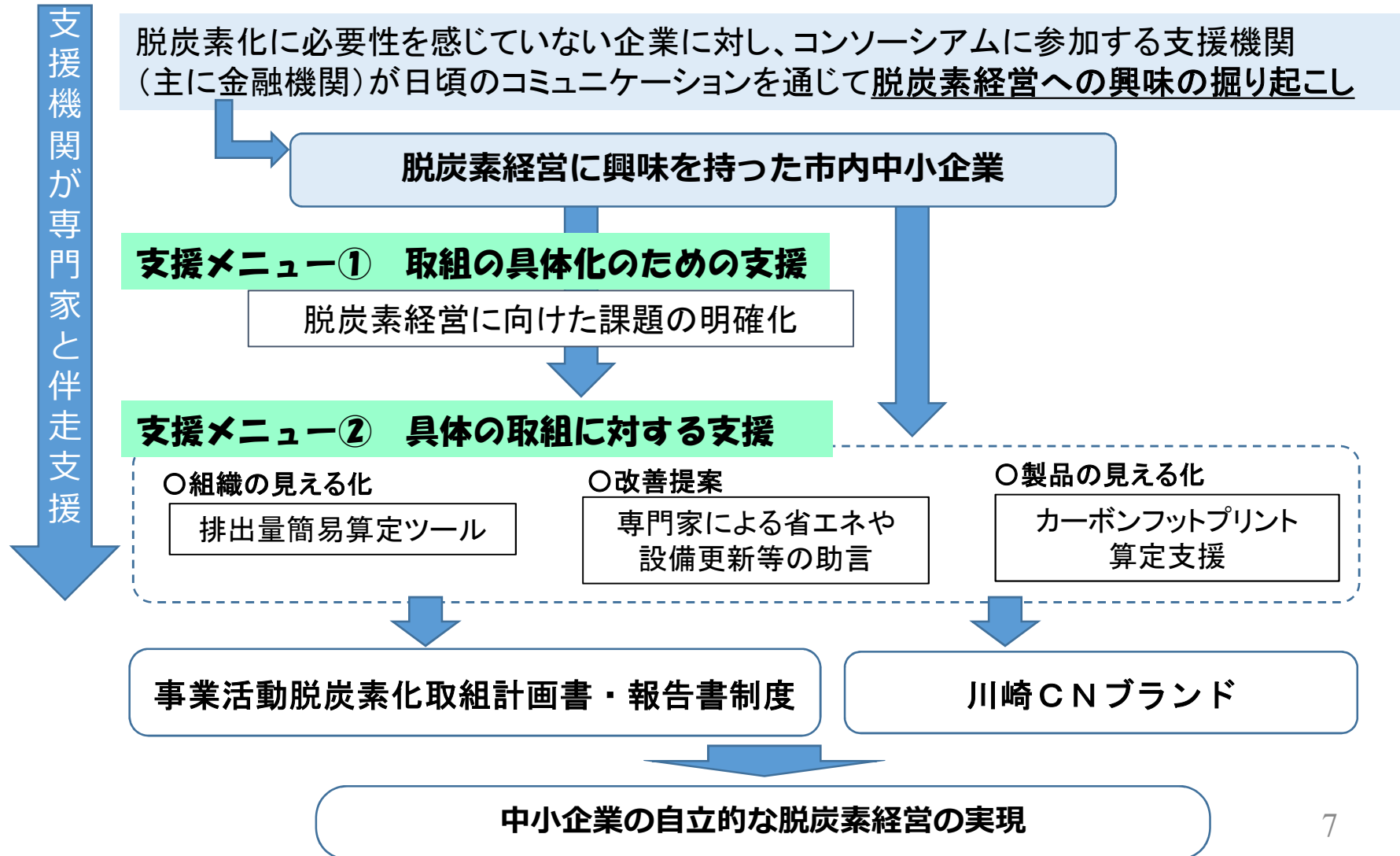
脱炭素化に取り組む事業者からの環境に関する疑問や課題の相談を脱炭素戦略推進室で一元的に受け付けるワンストップ窓口を設置



脱炭素経営推進（４）

●川崎市脱炭素形成支援コンソーシアム：令和５年９月設立

* 環境省支援事業





御清聴ありがとうございました

かわさきカーボンゼロ ロゴ

CO₂排出実質ゼロを目指す

葉は環境への配慮をイメージ



2つの矢印は資源、エネルギー、炭素などの循環をイメージ

「かわさきカーボンゼロ」ロゴマークは、2050年CO₂排出実質ゼロを表現したロゴマークです。

2050年の脱炭素社会の実現には、現状の取組の延長線上では難しく、一人ひとりが行動を起こすことにより、社会の行動変容を促し、脱炭素化の技術革新に繋げていくことが必要です。

川崎市はよりよい未来をつくるため、市民・事業者の皆さまと挑戦を続けてまいります。